第24期　第1回　健康・生活科学委員会　高齢者の健康分科会
議事録

5月25日（金）　午後12時～1時45分
場所　　日本学術会議　会議室
出席者（五十音順・敬称略）：伊香賀俊治　長田久雄　須田木綿子　住居広士　田高悦子
　　三輪清志　安村誠司　吉野博
欠席者（五十音順・敬称略）：内布敦子　玉腰暁子　正木治恵

１．役員選出
委員長　　長田久雄
副委員長　住居広士
幹事　　須田木綿子　田高悦子

２．今期の設置目的について
　　配布資料に基づいて確認

３．今期の活動内容について
１）テーマの視点から
・生活習慣　栄養　運動　休養・睡眠
・健康な高齢者の就労・就業：いきがい就労、介護予防就労、生計維持のための就労
・家庭内事故：入浴事故（住宅の寒さと事故）、住宅内の真夏の熱中症
・交通事故・交通対策
・Frail：体のfrailは定義もされているが、経済的・精神的frailも考える必要がある。その定義、概念、対策
・認知症、軽度認知障害、高齢者の犯罪（交通犯罪、万引き・・・認知症や貧困、孤独感等の精神的不安定さ）
・世界に冠たる高齢社会。非健康寿命が社会の不安を駆り立ててもいるが、課題の深刻さが共有されていない気がする。
・国の健康寿命延伸政策の内実は、先進医療と医療経済の強調。
・国民全体に問題を提起することができれば、と願っている。
・食料が満たされている中での高齢者の低栄養。
・高齢者を支援する介護保険制度は規制強化に伴うサービスのMcDonalization
・世代間の利害の調整
・アカデミックな関心と高齢者の関心が必ずしも合致していないのでは？
・栄養・休養・運動・・・高齢期の肥満をどう考えるべきか。中年期のメタボリックシンドロームとは異なる。成人期の考え方を延長すればよいのか。考え方は必ずしもauthorizeされていない。
・がん検診：いくつまでがん検診を受け続けるのか？　これも明確な考え方は出されていない。

・世帯類型：ひとりぐらし、夫婦のみ、未婚者・・・これから大きく変わる
・孤立・孤独・・・孤独死　死亡が確認されない超高齢者数の増加。個人の努力で解消したり、予防するのも困難ではないか
・元気高齢者の位置づけ：国のスタンスは、元気な人には働いてもらいたい。それをどう考えるか。本人、あるいは社会的にとっての意味は？これをアカデミアから切り込んでいくのも一案
・多様な健康度：みんなが元気ではなく、元気な人も弱っていく。これらの人々をどう支援していくか。住宅、環境、ケア職種の役割。
・支える専門職種の人材育成。多様な職種が地域の中で多様な高齢者をいかに支えているか。あるべき姿の提言。職能団体からではなく、アカデミアから発信。
・高齢社会、高齢者の見方が歪んでいる。適切に理解されていない。教育の中でとりあげられているか。高齢社会と、高齢になる人の視点。高齢社会についての認識の共有。

２）学術会議の役割の視点から
・アカデミアとして何をすべきか。学術会議として何を貢献すべきか。
・誰に対して成果を公表するのか：政策提言？　国民？
・いずれにせよ、何らかの見解を出すことは求められているのではないか
・学際性はこの分科会の特性なので、これを強みとすることが賢明だろう

４．今期の活動成果の公開方法について
１）成果の公開は必要であろう。
２）公開方法の選択肢
勧告
要望
提言（幹事会査読あり）：学術会議の HP 上に掲載
報告書（幹事会査読あり）：学術会議の HP 上に掲載
記録（幹事会への報告、第三部会のみ査読あり）：学術会議の HP 上に掲載
「学術の動向」への投稿
３）成果物のまとめ方
・高齢者の健康問題に関する課題整理：健康を構成する要素と、関連要因やそれらの間の因果関係の探索。
・高齢者の健康と環境
・高齢者を元気にすればいいとかはならない。どう生きて、どう死ぬか。哲学的課題。明らかになりつつある個別の課題を、どうまとめあげるか。
・世界に類を見ない高齢化の先頭を走っている日本が、国外に向けて発信できないか。
・委員がオムニバス形式でひとつずつ記録として出していただく方法もあるのでは。それらをあえてひとつにまとめる必要はないのではないか。2 年半しかないので。
・「あるべき像」はある程度共有する必要があろう。「あるべき像」にもいろいろあり、これをめぐって論争になる場合もある。

５．当面の作業として

下記の作業を長田委員長から各委員に依頼；

「学術的な視点から、浮かび上がってきたテーマについて、現状・実態を数行にまとめ、課題を一文で示す。」

どのように解決すべきか等の方向性に関する提言を加えるかどうかは任意。

誰にむけての喚起であるのかも示すことができれば望ましいが、これについては分科会で議論してもよいこと。

＊締め切りは後日周知

６．伊香賀委員から下記の著作の紹介

伊香賀俊治・星丹二・小川晃子・安藤真太郎(2017)

『すこやかに住まう　すこやかに生きる:　ゆずはら健康長寿の里づくりプロジェクト』

慶應義塾大学出版会

７．次回：8 月 24 日午後 1 時～　　議題：「分科会の課題について」